

○ 本校の概要

・学校規模 児童数369名 14学級 教員数 21名
 ・校内研究主題 「自分の考えや気持ちを相手に伝える表現力の育成」～話すこと・聞くことの学習を通して～

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	評価人数	学校関係者記入欄
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「授業のときはいつもがんばっている」と思っている児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎「授業中、先生や友達の話の聞いてる」に答えた児童は、92%と、昨年度の99%より上昇した。しかし、「手を挙げてたくさん発表する」と答えた児童は、58%であった。これからは、授業を通してお互いの考えを交流する良さを体験させていき ○3・4年生の外国語活動と5・6年生の外国語科は、外国語専門の講師と外国語指導助手(ALT)による発達段階に応じた一貫した指導体制をとった。6年の学習効果測定ではその成果が表れた。 ○今年度は、地域のものづくりについて工場見学をして調べ学習を行い、「ものづくり教育学習フォーラム」で発表した。来年度は、令和7年度に新設される伸教科「おたの未来づくり」を牽引した教材開発を行う。 ○タブレットを学習用具の一つとして活用するために、3年生以上はタイピング力の向上に努めてきた。来年度も継続していく。 ○人権教育は全教育活動を通して行っているが、資料を使った授業は、担任が特にしめ防止の観点から道徳科として行った。そのため実施率が80%になっている。 ○今年度は1校1取り組みとして、長編大会・ポッチャ大会に加え、マラソン週間を新設した。来年度は、さらに拡充していく。	A 8 B 2 C 0 D 0	・授業公開では、積極的に発言する児童の姿が見られた。 ・実際に工場見学をして調べ学習することは、児童にとっても楽しい学習である。教員が取材に熱心な姿にも感じました。 ・コロナ禍で話を聞くことが身に付いたと思うが、人前で話すことも大切だと思う。 ・外国語やタイピングの宿題もあっていいのではないかと。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3					
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「授業中勉強がよくわかりますか」で「よくわかる」「わかる」と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎「勉強がよく分かる」と回答した児童は80%と、昨年度の87.1%より上昇した。 ○土曜日授業では、4校時に全教員で補習を行った。来年度は、さらに補習の回数を増やしていく。 ○授業改善推進プランを全教員で共通理解して取り組んだ。 ○校内研究では、国語科の話しこと聞くが特にしめ防止の観点から道徳科として行った。そのため実施率が80%になっている。 ○今年度は1校1取り組みとして、長編大会・ポッチャ大会に加え、マラソン週間を新設した。来年度は、さらに拡充していく。	A 7 B 3 C 0 D 0	・コロナ禍での授業改善の取り組みが大変だったと思うが、子どもたちの想いを大切にしたい授業をお願いしたい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4					
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培っていきます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「きまりを守って生活していますか」で「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎「決まりを守っている」に対して、肯定的評価は88%と、昨年度の87%とほぼ同じであった。 ○今年度は、道徳授業地区公開講座を参集型にし、道徳教育推進教師が本校の道徳教育について、保護者・地域教育連絡協議会の方に説明した。来年度は、1年間を通して各教室での道徳授業を参集形式で公開する。 ○月1回の校内委員会を活用して、問題行動・不登校問題についても取り扱ってきた。臨時で開催することもあり、臨機応変に対応した。来年度は、校内委員会と生活指導部との連携をより充実させる。 ○縦割り活動の時間を30分に拡大したことで、交流の内容が深まった。縦割り活動により、高学年の自己肯定感や、低学年の進級への期待が高まった。	A 5 B 5 C 0 D 0	・特に力を入れてほしい項目である。対応をおろそかにせず、学校も家庭も子どもと向き合い信頼関係を築けるようにしたい。 ・道徳授業を通して豊かな心が育めるよう、学校の取り組みに期待したい。 ・縦割り活動の内容を具体的に知りたい。(ゲーム・スポーツなど)
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	年度末児童アンケートの「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した生活が「できている」「ほぼできている」の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎早寝早起き朝ごはんの肯定的評価は、71%と、昨年度の73%よりやや減少している。今年度10月の健康チャレンジ期間の調査でも、5月と比べ、早起きは76%で3.3%減少、朝ごはんは95.3%で2.3%減少、早寝は60.1%で7.8%減少した。 ○5年生が総合的な学習の時間で食育について調べ、学習発表会で発表し、食育の成果となった。 ○一校一取組として、体力向上・スポーツ振興のため、2学期にポッチャ大会・マラソン週間、3学期に長編大会を行った。来年度は、各学期に体力向上の取り組みを行っていく。 ○2学期に手洗い週間を設けた。その期間に代表委員会・保健委員会が、給食の手洗いの時間を「手洗いの歌」を放送し、手洗いを啓発した。来年度も児童の自主的な取り組みを生かしていく。	A 7 B 3 C 0 D 0	・コロナ禍になる前は朝食を食べない児童が多かったようだが、今は「早寝・早起き・朝ごはん」ができてきた子供が多くなったように思う。 ・早寝早起き朝ごはんは、毎日となるなどなかなか難しい現状がある。健康チャレンジ期間があると、家庭でも意識できるのよい取り組みである。 ・ポッチャ大会や・長編大会は盛り上がりがあったように感じる。楽しんで取り組めるところが良いと思う。 ・5・6年生の駅伝大会があるが、学校によって力の入れ方が違うように感じる。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					
		健康観察や手洗いの習慣化を通して、健康への関心を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					
		異年齢交流の機会を充実させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っている」と「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎分かりやすい授業を行っているについての肯定的評価は86.1%と昨年度の93.4%より2.3%減少した。5月の学校公開アンケートでは97.8%、10月の学校公開では95.3%の肯定的評価であった。 ○来年度は授業力向上のため授業観察に基づく指導をOJT研修に組み入れる。 ○区内の研究発表会には、できるだけ1人1回は参加できるように計画した。自身の授業改善だけでなく、還元研修としても生かしていく。 ○校内委員会を定期的に開催し、児童理解を深め、個に応じた支援について検討した。 ○「東六郷小学校スタンダード」については、定着度に学年差・学級差がある。教員も児童もともに共通理解していくと共に、毎年内容を見直していく。	A 6 B 4 C 0 D 0	・毎月、学校関係者にも、学校の様子が分かる「学校だより」を届けていただき、ありがたい。 ・手紙の内容には、良いことだけでなく、現状の報告もあった方がよいのではないかと。 ・音楽集など学年ごとの行事も、早めに日程を知らせてほしい。 ・持ち物の連絡は、早めに知らせてほしい。 ・コロナ禍のせいもあるが、保護者会の出席率が低く、保護者同士の面識が少なくなっている。 ・わくわくスクールは、高学年向きの内容がもっと増えるといい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	「東六郷スタンダード」を校内共通の学習ルールとして徹底し、学習規律を定着させ、児童が主体的に学ぶ環境づくりを行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	年度末保護者アンケートの「学校からの通信は、知りたい情報が盛り込まれている」「学校公開や保護者会等で、学校の様子がよくわかる。」「学校は地域・保護者に対し、丁寧に対応している」の3項目で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	◎「知りたい情報」は81.7と昨年度の87.1%より5.4%減少した。「学校公開・保護者会」は86.6%と昨年度の82.9%より3.7%上昇した。質問や要望に丁寧に対応し、75.3%と昨年度の86.1%より9.8%減少した。 ○ホームページの更新回数も昨年度より増やしたが、さらに更新回数を増やしていきたい。また、学校行事や保護者会等でも、参加人数の拡大を切望するご意見も多く寄せられた。来年度は、感染症対策を取りながらも参観の機会を増やしていく。 ○地域教育連絡協議会では、評価の観点から学校の取り組みについて映像で説明するよう計画中。 ○今年度は学校支援地域本部と連携し、読み聞かせ、わくわくスクール、地域探検の安全管理などの教育活動を再開した。地域力のおかげで、児童は充実した経験ができた。	A 5 B 4 C 0 D 0	・毎月、学校関係者にも、学校の様子が分かる「学校だより」を届けていただき、ありがたい。 ・手紙の内容には、良いことだけでなく、現状の報告もあった方がよいのではないかと。 ・音楽集など学年ごとの行事も、早めに日程を知らせてほしい。 ・持ち物の連絡は、早めに知らせてほしい。 ・コロナ禍のせいもあるが、保護者会の出席率が低く、保護者同士の面識が少なくなっている。 ・わくわくスクールは、高学年向きの内容がもっと増えるといい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す